

会 議 録

会議名 (審議会等名)		平成30年度相模原市子ども・子育て会議 第3回子ども・子育て支援事業計画策定部会		
事務局 (担当課)		こども・若者未来局 こども・若者政策課 電話042-769-8316(直通)		
開催日時		平成30年10月16日(火) 午後6時から8時30分		
開催場所		けやき会館 職員研修所大研修室		
出席者	委員	8人(別紙のとおり)		
	事務局	11人(こども・若者政策課長ほか10名)		
公開の可否		可	不可	一部不可
傍聴者数		0人		
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 開 会 2 議 題 (1)次期相模原市子ども・子育て支援事業計画の策定に係るニーズ調査について ア アンケート調査について イ ヒアリング調査について (2)その他 3 閉 会		

主な内容は次のとおり。(は委員の発言、 は事務局の発言)

1 開 会

2 議 題

(1) 次期相模原市子ども・子育て支援事業計画の策定に係るニーズ調査について

ア アンケート調査について

事務局から、子ども会に関する質問項目を追加することについて提案があったが、さらにPTAに関する質問項目も追加してはどうか。PTAは、教職員と親だけでなく、親同士の交流機会も期待できる貴重なものであると思うが、最近は参加に消極的な親が増えていると聞いている。親視点からの、PTAに対する認識を確認してはどうか。

子ども会に関する質問項目は、子どもの減少とともに子ども会自体の数も減り、活動が低迷してきている現状を踏まえ、その活性化を図る目的で、子ども会事業を所管する事務局が追加提案をしたものである。一方、PTAについては、教職員と親で組織された団体であり、教育委員会にて取り扱う問題と理解しているので、今回の調査においては、PTAについての質問項目は追加しないこととしたい。

子ども会は、人口減少や地域コミュニティの希薄化が進む中で、その在り方が問われていると思う。地域コミュニティにおいては、世代を超えて支え合っていく必要があり、自治会と子ども会が協力して世代間のコミュニケーションを図るなど、工夫が必要だと感じている。この質問項目においては、今後の地域活動における新しいアイデアが生まれることを期待したい。

子ども本人を対象としたアンケート調査票に、虐待に関する質問項目があるが、回答内容が親の目に触れる可能性もある状況では、実際に虐待を受けている子どもは「たたかれる」「つねられる」等の表現では回答しにくく、また精神的に辛く感じることもあると思うので、配慮が必要ではないか。

表現については前回調査より配慮されていると思うが、虐待に関する質問項目なので、やはり辛く感じる子どもはいるかもしれない。また、子どものアンケートに関心を持つような親であれば、虐待していないことも期待できる。この質問項目については、信ぴょう性の高い結果が得られない可能性もあるが、現行案のとおり進めたい。

子ども本人を対象としたアンケート調査票のレイアウトについてだが、年齢ごとに回答すべき質問項目が異なる箇所については、文字を目立たせるなど、もっとわかりやすく表記すべきではないか。

ご指摘を踏まえ修正する。

イ ヒアリング調査について

こどもセンターには、人材派遣会社から派遣されたスタッフなど、様々な立場のスタッフがいるため、そのようなスタッフからも幅広くヒアリングするのが望ましいと思う。

ヒアリング調査については、調査実施日に出勤しているスタッフにヒアリングをすることとなるため、雇用形態等を問わずに実施したいと考えている。

前回調査時に、各施設のスタッフ等に対し「利用者に希望することはあるか」という質問をしている項目があるが、どのような目的があって質問していたのかわからず、疑問を感じる。

目的としては、例えば、利用マナーに関してスタッフが利用者に求めるものなどを聞き取る意図があったと考えられるが、今回の調査においては、利用者のニーズに焦点を絞り、当該質問項目は削除したいと考えている。

前回調査時に、児童クラブ等を利用している子どもに対し「どんな道具があったり、どんな遊びができたら、もっと楽しくなると思うか」という質問をしている項目があるが、児童クラブについては生活の場でもあり、子どもは遊び以外の何かを求めているかもしれないので、質問に幅を持たせ、「他にやりたいことがあるか」などの質問項目に変更してはどうか。また、児童クラブ等を利用している子どもに対しては「先生のどんなところが好きか」という質問項目を追加し、子どもと先生の関係性の向上につなげてほしい。

児童クラブは基本的に、親が仕事で家庭にいない等の場合に利用するものであり、利用している子どもがその児童クラブや先生を好きであるかはわからないため、「先生のどんなところが好きか」という質問項目は馴染まない可能性もある。

児童クラブは子どもの居場所としての機能があり、子どもには様々なニーズがあると考えられる。本日の部会においては内容の確定はせず、よりよい質問項目となるよう今後引き続き検討していきたい。

次回の会議においては、具体的に質問項目の内容を確定させる必要があるため、事務局より具体案を示してほしい。

本日の議論を踏まえ、質問項目案を作成したい。

調査の実施にあたっては、協力する学生含め、調査員が質問の趣旨を理解していることが重要だと思う。

その場で聞き取った内容を全て記録し、回答者の意図した内容が正確に報告書に反映されるか不安である。

使用する調査票には想定される回答の選択肢を予め用意しておくなど、調査員の負担が軽減され、かつ報告書も調査員ごとに差異が出ないように、事務局や委託業者において工夫をしてほしい。

また、学生が調査員として協力することについては、各委員懸念があるかと思うが、このことについては事務局において、市と大学との連携や、学生の市政参加の観点から考えられたものであり、今回の調査にあたってはこの体制で臨むという前提でこれまで話を進めてきた。学生に協力を依頼せず、全面的に調査会社に委託するという手法もあるだろうが、その選択はこの会議では判断できない部分だと理解している。この会議においては内容の部分について議論していきたい。

調査員に対しては、質問の趣旨などについて、事前に説明する機会を設けることとしたい。

調査手法についての意見だが、質問項目を事前に調査対象施設に伝え、回答がある程度用意しておいてもらおうと、調査時間が短縮にされ、調査員と回答者の負担軽減につながると思う。

前回調査では、各施設長に対し質問項目を事前に伝えたが、施設長からスタッフや利用者に伝えるか否かについては、各施設長の判断であった。

今回の調査についても、前回と同様の方法で実施したいと考えるが、各施設長に対しては、可能な範囲で利用者にも質問項目を事前に伝えるよう依頼したい。

想定している調査対象者数について、こどもセンターについては対象者数が減少しているが、全施設の合計対象者数は前回より非常に増加しており、実施できるか不安である。

こどもセンターについては、以前の会議で意見のあった、民間児童クラブへのヒアリング調査を新たに追加したため、対象者数を減らしたものである。

また、合計対象者数については、利用者の協力がどの程度得られるかによって変動するものであるため、目標値として捉えていただきたい。

具体的な質問項目の内容など、詳細については、次回の会議にてあらためて議論することとしたい。

3 閉 会

相模原市子ども・子育て会議

子ども・子育て支援事業計画策定部会委員名簿

(五十音順)

	氏名	所属等	出席
1	荒井美由紀	相模原市立小中学校長会	出席
2	安藤抄苗	公募市民	欠席
3	遠藤靖明	公募市民	出席
4	片山知子	和泉短期大学児童福祉学科教授	出席
5	西谷八千代	みらい子育てネットさがみはら連絡協議会	出席
6	藤井春美	相模原市学童保育連絡協議会	出席
7	松原充子	特定非営利活動法人 相模原市障害児者福祉団体連絡協議会	出席
8	村瀬麻衣子	一般社団法人 相模原市ひとり親家庭福祉協議会	出席
9	山崎和正	相模原商工会議所	出席

部会長